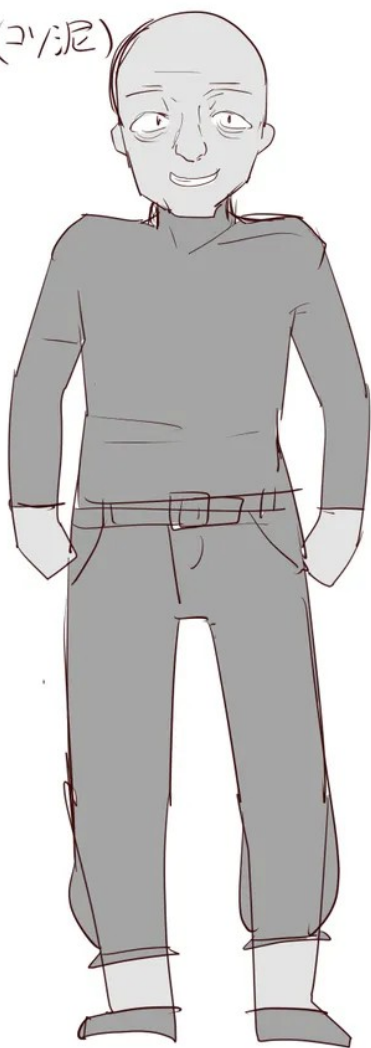


ガッパル
(コ/泥)



ユーリ
(弟子)



リーナ×ルト
(先生)



遺跡では見つかりませんでした明日もう一度行ってみます

他の心当たりを探さなければいけませんね...

俺は被害者なんだぞ？
言い方ってもんがあるよなあ

お前らが不用意に危険なもの置いておくからこんな身体になっちまってさあ

おいつまでこんなひ弱な身体でいなきゃいけねえんだ

すみませんわたしの体でご不便を...

それはお前が勝手に...!

先生の体に触るな!

この身体でかくて邪魔だから当たっちゃうんだよなあ

ゲッパールさんもわたしの身体嫌ですよ...

9日前のこと...

これは金になりそうだな

いけませんそれに触れてはっ!



解析中だった未知の魔道具がゲツパールによって起動されてしまい

ゲツパールの魂は先生の体は



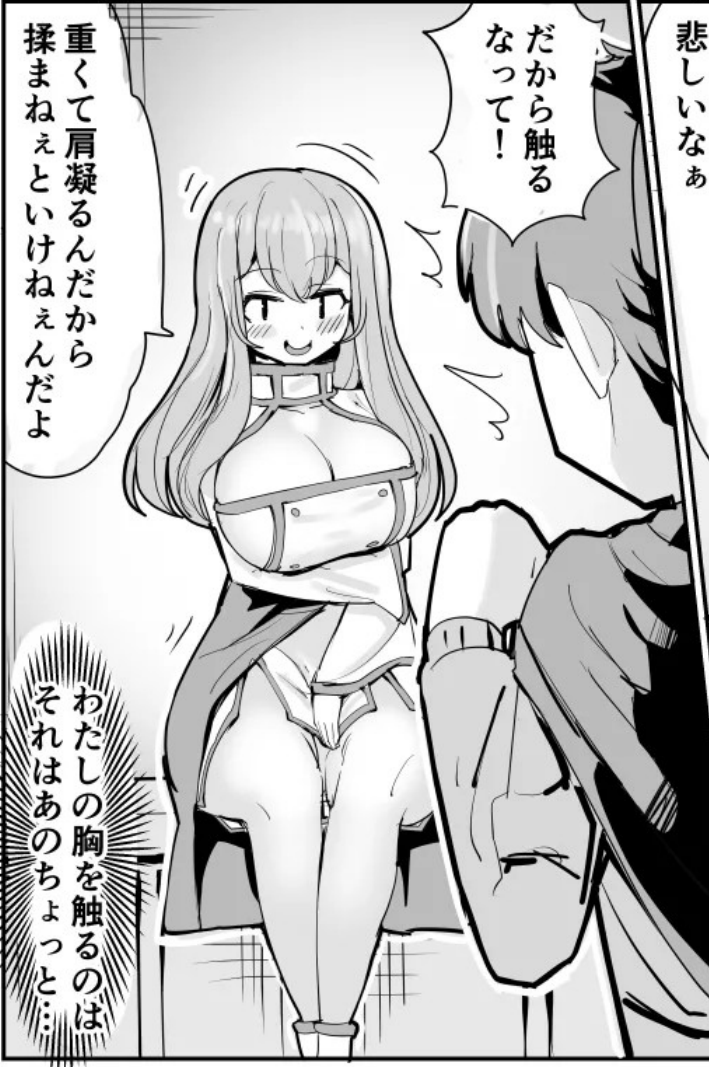
先生の魂は魔道具に囚われてしまう

元の体に戻るために協力しあうはずがこいつは先生の体を楽しんでいるような...

俺の自慢の胸板とムスコがこんなナリになっちまって悲しいなあ

だから触るなって!

重くて肩凝るんだから揉まねえといけねえんだよ



わたしの胸を触るのはそれはあのちよつと...

ある日のこと

あれ？
開いてる

ゲッパルの体を魔術回路で
維持している部屋だ

僕と先生以外は
入れないのに



!?

オナニーもいいけど
やっぱセックスだよなあ♡

俺の身体生きてるから
勃起してくれるしまあ射精は
できないみたいだけ♡

セセックス!?





女の身体はいいぞ
男の数段気持ちいいんだ♥

こいつっ……!!



おっとバレち
まったか

なったに
やっつてんだよ!?

せつ先生の
体でっ!!



なったんでっ!?

ユーリ?

どうしまし
たかユーリ?



先生の
体でっ!?

ガッ



先生っあいつに自由を
与えず拘束しましょう!
信用できない人間です!

なにがあつた
のですか?!



先生こいつ
んぶっ!?

三人の距離が
近いようですが…



なっなにしていっ!

何があったか
報告できますか?



今の感覚は
なんだっ!?

なあ何も
してないよな?



何でもないから
心配すんなってえ

んんんっ

そそうですか…?



このドキドキは
いったい…

話っ
染にに…

すみません…
報告はありません

なにをされた?
先生の手で触られて
これは…

スルッ

またある日

調査はどうですか
進展はありましたか...??

先生っ

柔らかいっ
いい匂いっ

ヌヌ...

お前の小ささ
じゃ奥まで届か
ないぞ♥

ああ
そうだ

先生っ

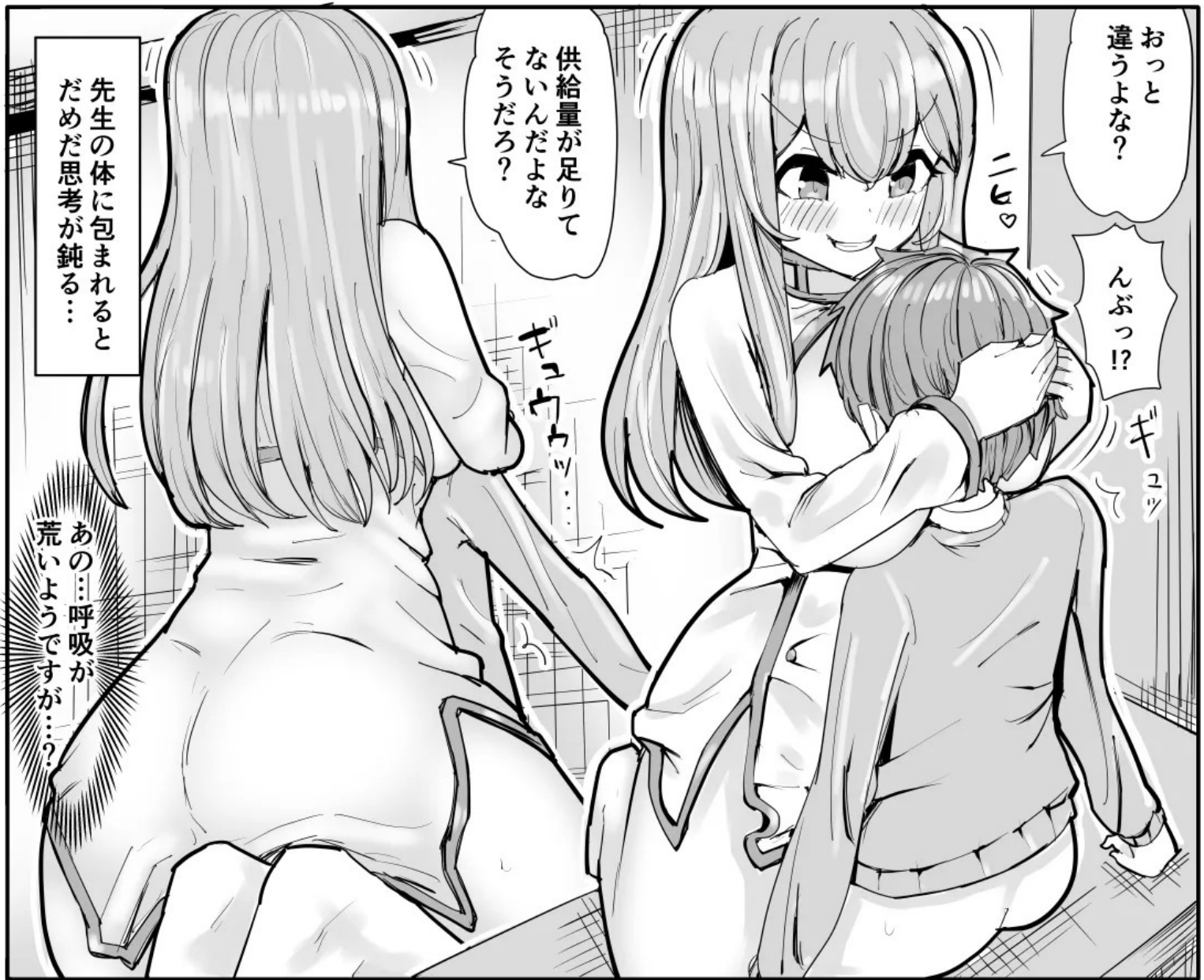
蓄積魔力は十分に
あったはずですが...
ユーリそうなのですか??

俺の身体を維持する
魔力が足りなくなってまーす

!!

違いますっ
こいつが工房を無駄にっ





おっと
違うよな？

んぶっ!!

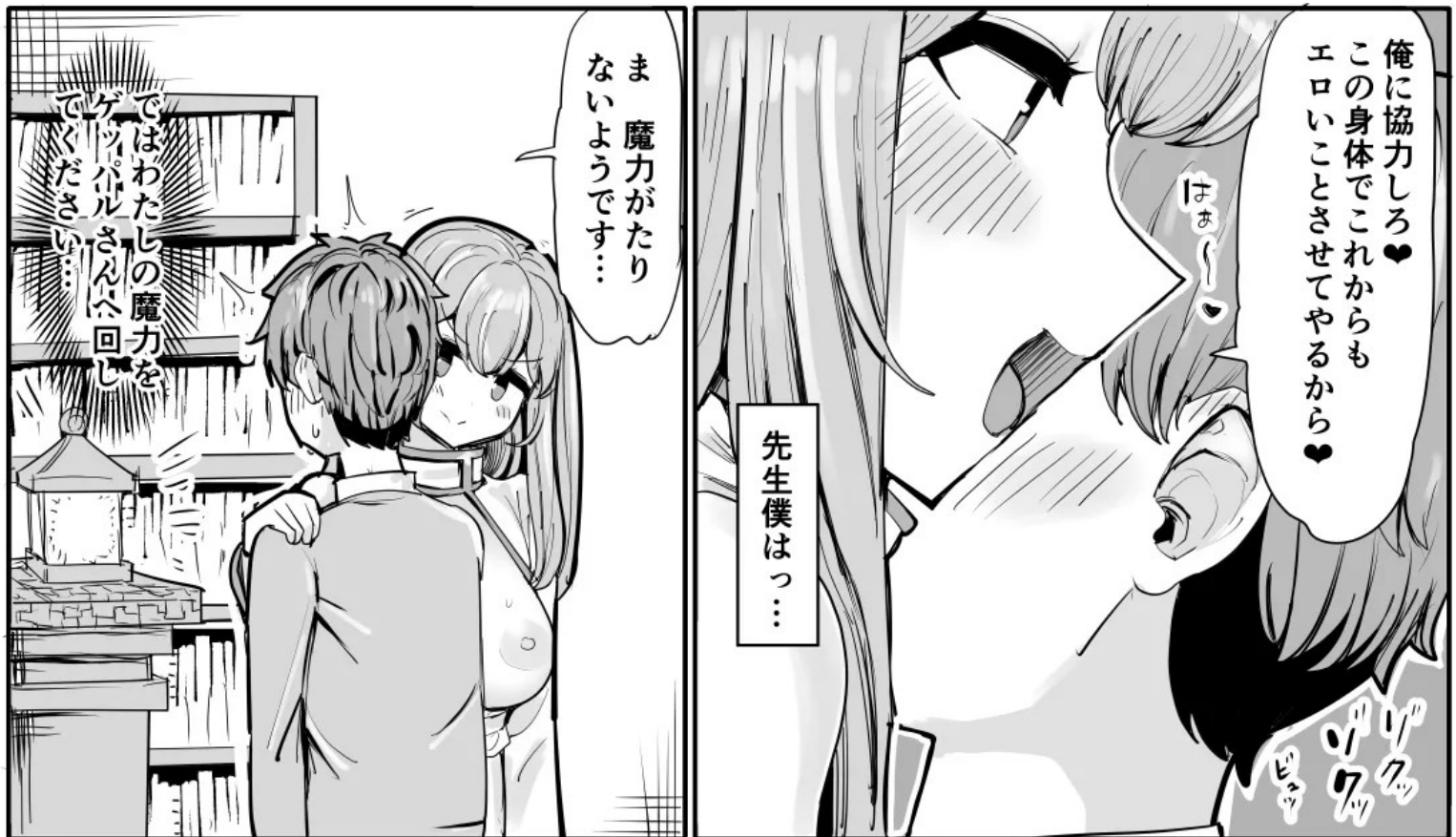
ギョウウッ

供給量が足りて
ないんだよな
そうだろ？

ギョウウウッ...

先生の体に包まれると
だめだ思考が鈍る...

あの...呼吸が
荒いようですが...?



俺に協力しろ♡
この身体でこれからも
エロいことさせてやるから♡

はま〜♡

ピク
ピク
ピク

先生僕はっ...

ま 魔力がたり
ないようです...

ではわたしの魔力を
ゲッパルさんへ回し
てくださーい!!

いつしか先生の声は
聞こえなくなっていた

お前また勝手に外
出歩いてっ

こんなことされて俺に指図
できる立場なのかよ？

ここでやめても
いいんだぜ♥

めよっ…

クイ
クイ

そっ
それは…

邪魔な魔道士様には消えてもらって
この身体は完全に俺のもの♥

この若くて健康的で
魔道の才のある身体で
俺は第二の人生いいや…

ガキはこの身体でお願い
すれば何でもやるし
都合のいい手下ができた

くふふふ♥

わたしの新しい人生
謳歌するわよ♥

酒場にて



「はあ？
ナンパかよ」

「綺麗なお姉さん
俺と飲まない？」

中身男 ←



「男になんて興味
ねえっつての」

「ええっ!!」

「この子お持ち帰り
させてもらおうわね♡」

「ひゃあ、あつ
お客様っ!!」

「だってわたしが好きなのは
可愛くて若くて肉付きの良い
女の子なんだから♡」

「ごっつ困りますっ
お客様あつ♡」

(思ってたのと違う
けどなんだろう良い
もの見れたきがする...)



「麗しのリーナ先生が
帰ってきたぞー」

「お前また
飲み歩いてっ!!」

「よし寝たな
それにしても…」

「すう…すう…」

男の時のゲッパルは
大いびきをかくが先生の
肉体なので可愛い寝息

「眠っていると元の
先生のまみみだ…
先生お美しいです…」

「先生の下着…うっ
まだ起きないよな?」

「先生は僕だけ
のものなのにっ」

「ふぁ…♡」





「イキゆうっ♡」

「イクうっ♡」

「!?」

「イクっ♡」

「あっ♡くるっ♡」

「んっ♡」

「女って無限にイけるの
最高だ♡もう「発じよ♡」

「先生っ先生の」



へえー俺ナンパ
いっちゃおっかな
最近無敗なんすよ

いやあお客さんあの人は
やめといたほうがいいよ



マスターあの美女
誰っすか？

偉い魔道師さんみたいだね
最近よく来てくれるんだよ



ふげっ

うせろ

ガンッ

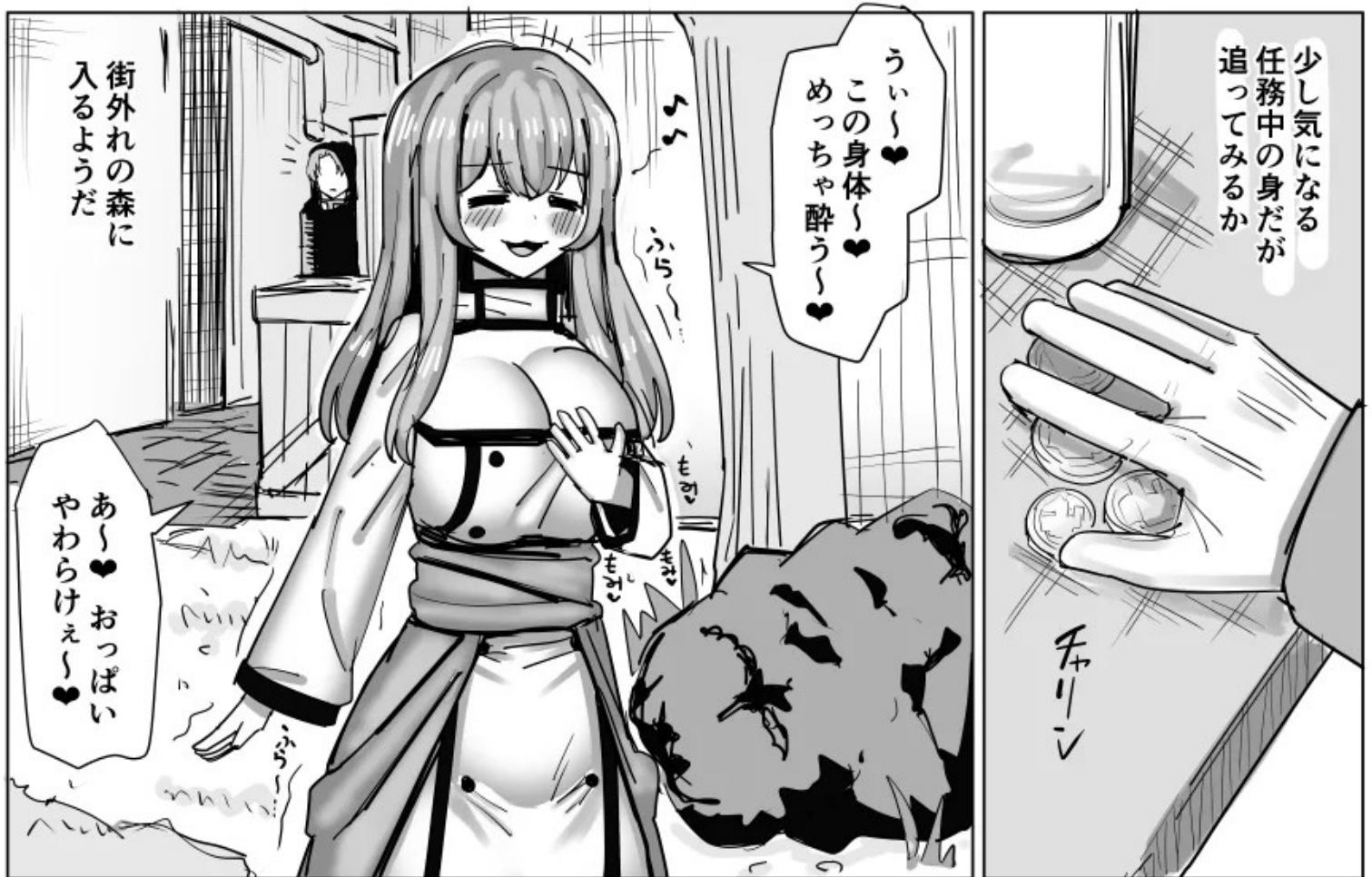
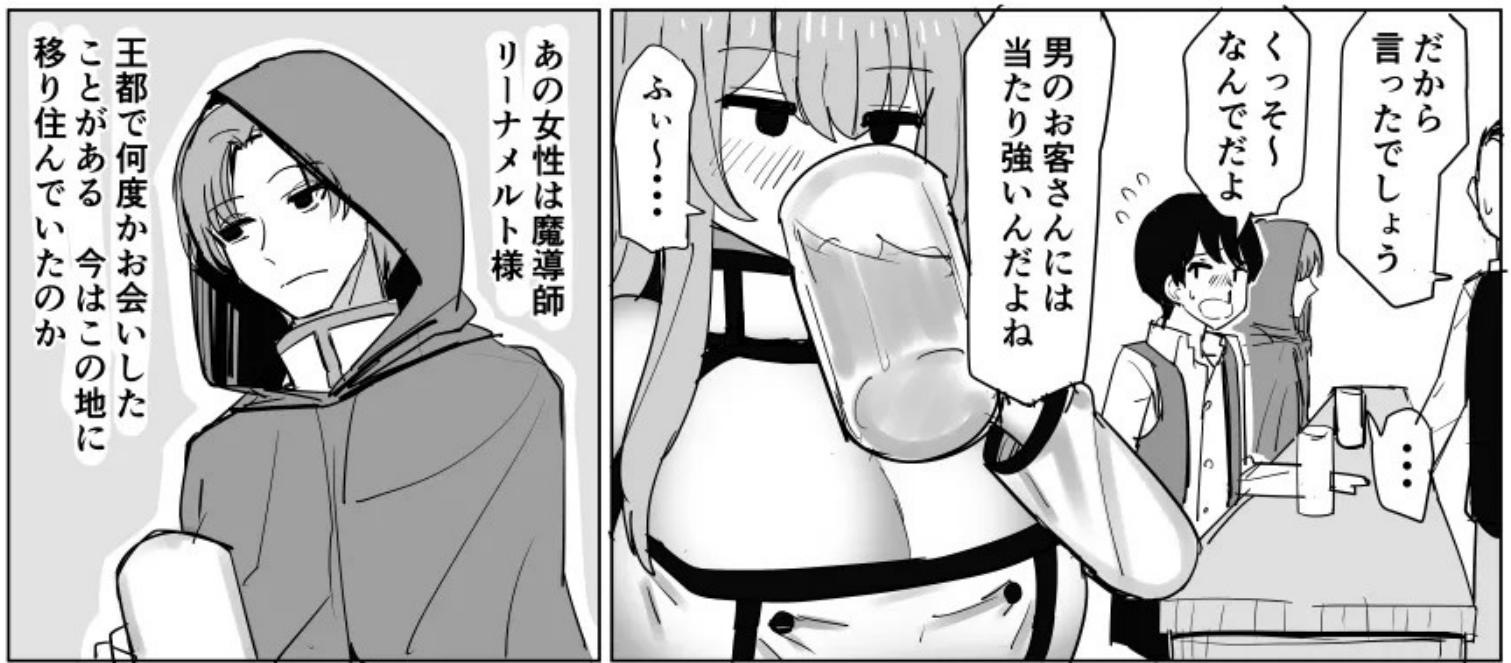


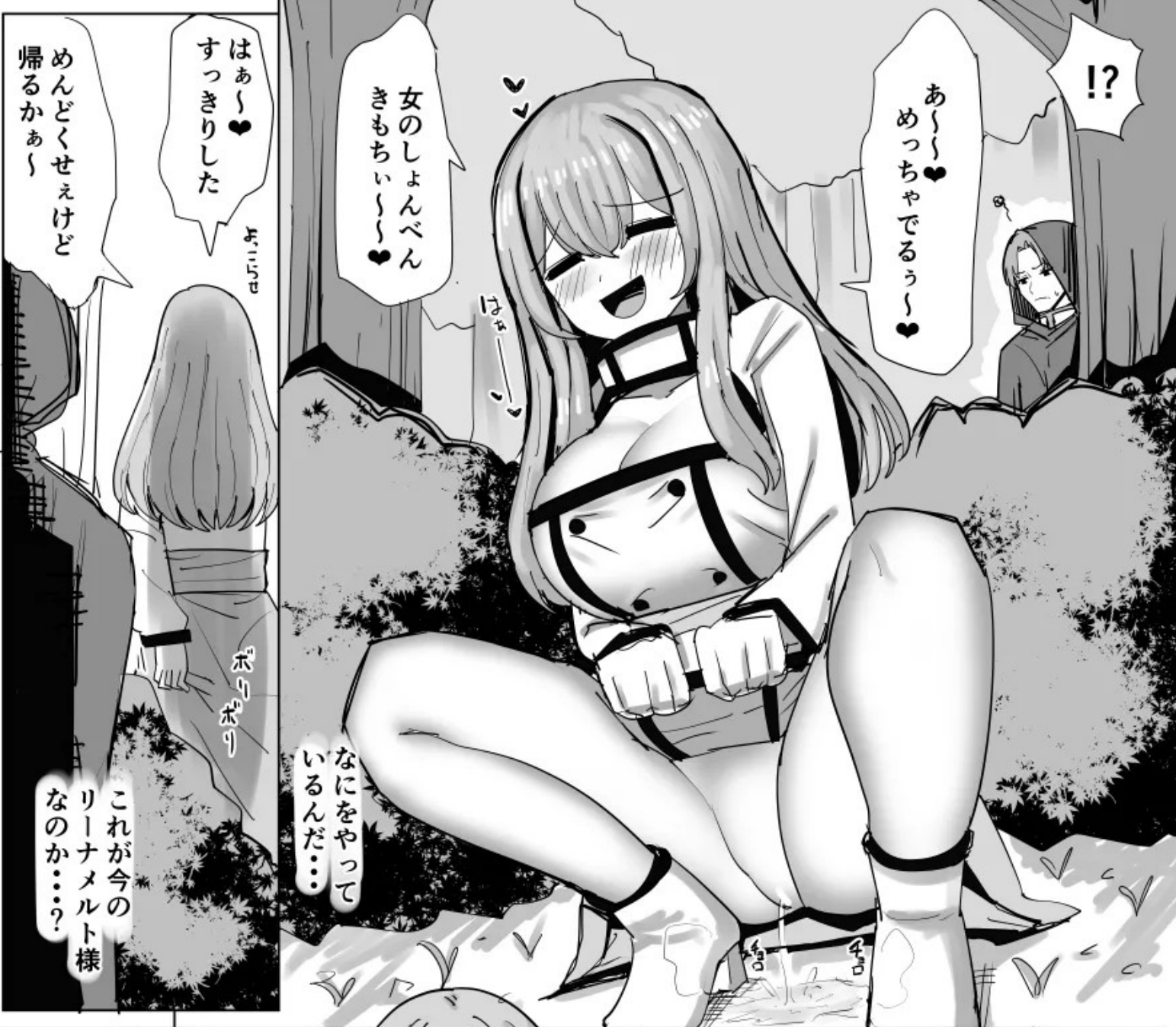
お姉さん一人だよね
俺と飲まない？

俺この常連で
マスターと仲いいんだ
奢らせてくれない？

…あ？
なんだおめえ

イマッ





!?

あ〜♡
めっちゃでるう〜♡

女のしよんべん
きもちい〜♡

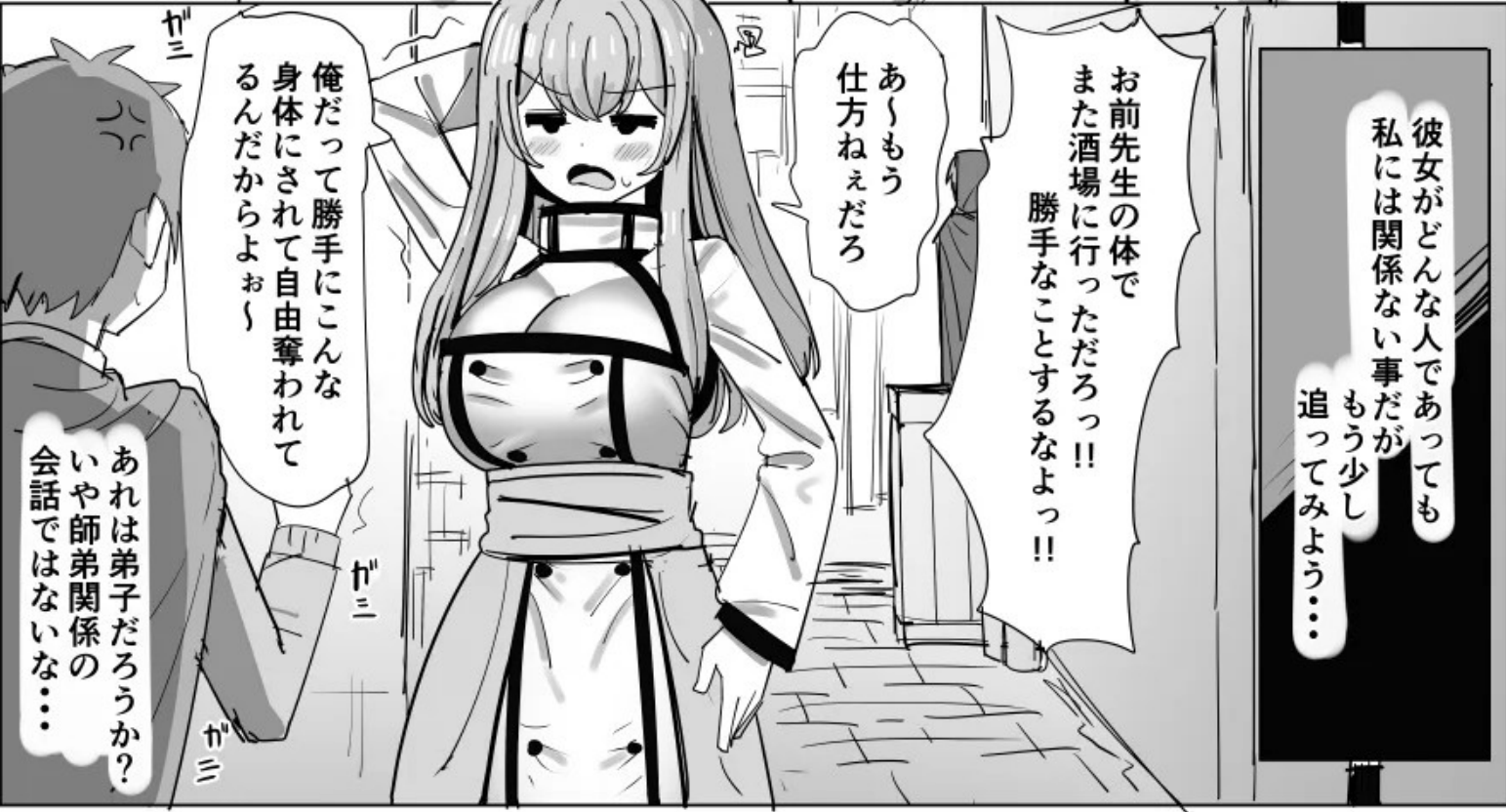
はあ〜♡
すつきりした

めんどくせえけど
帰るかあ〜

なにをやっているんだ…

ポリポリ

これが今の
リーナメルト様
なのか…?



彼女がどんな人であっても
私には関係ない事だが
もう少し
追ってみよう…

お前先生の体で
また酒場に行っただろっ!!
勝手なことするなよっ!!

あ〜もう
仕方ねえだろ

俺だって勝手にこんな
身体にされて自由奪われて
るんだからよお〜

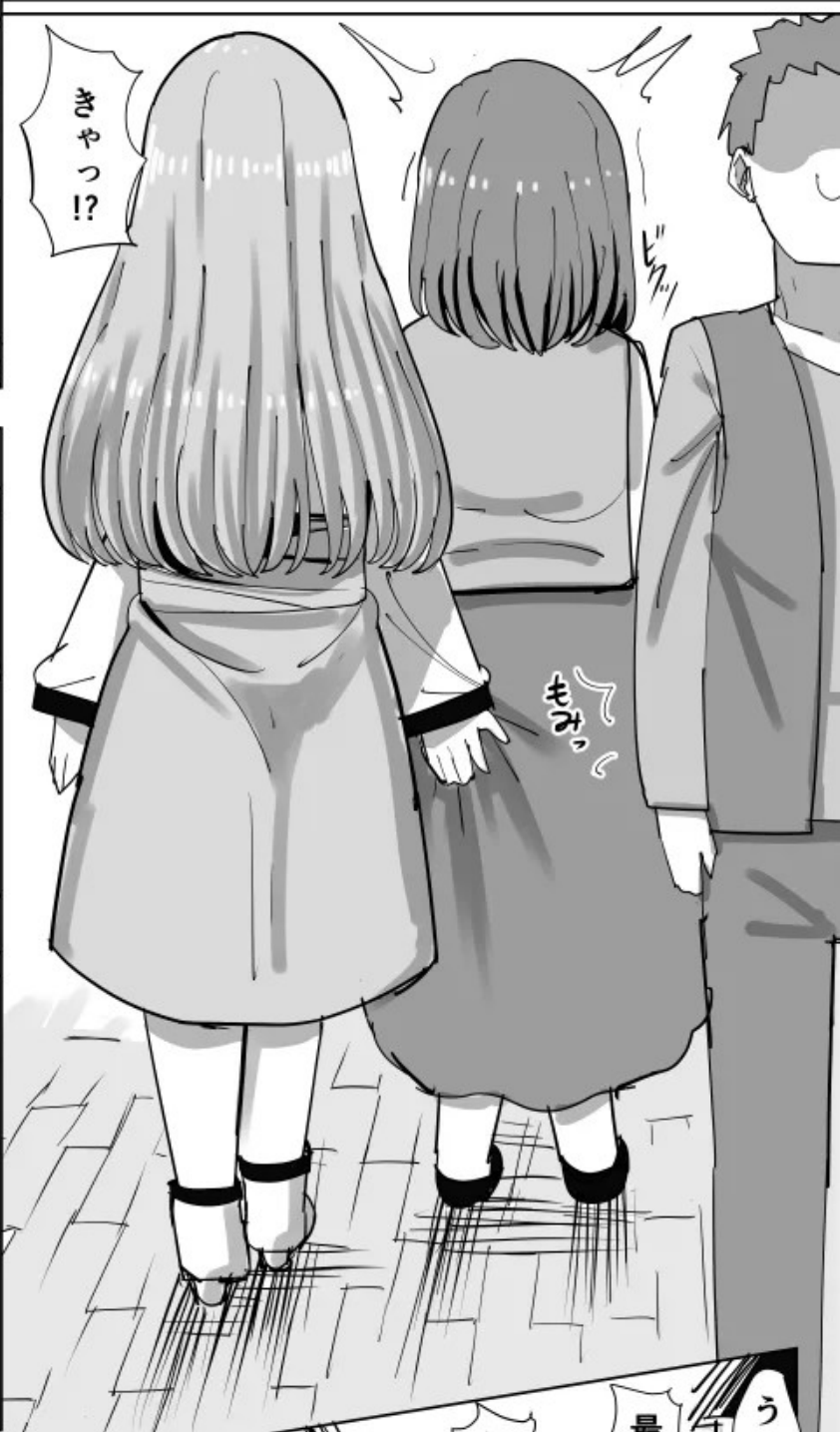
あれは弟子だろうか?
いや師弟関係の
会話ではないな…



あんたお尻
触ったでしょ!?

えっ!?
俺じゃない

あんた以外に
誰がいるのよ!!



きゃっ!?

もっ!



じゃあこの美人な
お姉さんがわたしのお尻を
触ったっていうの!?

そんなわけ
ないじゃないっ!!

どうかされましたか?



俺ってば美人な
お姉さんだから!♡

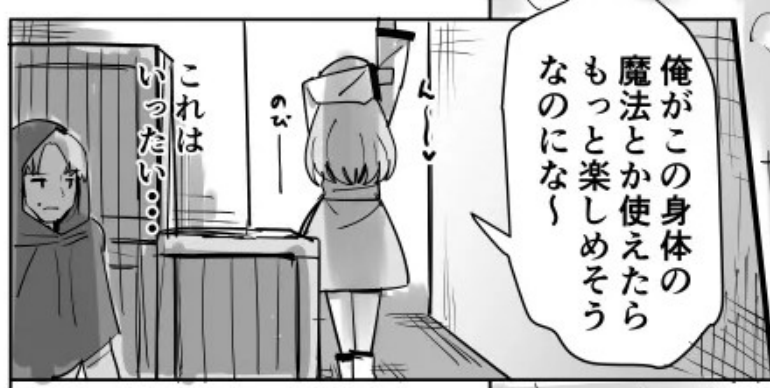
最低っ!!

この痴漢男!!

うう...

女のケツ触っても
疑われないんだぜ!♡

臀部を触り罪を
擦り付けるとは
なんて卑怯な...



俺がこの身体の魔法とか使えたらもっと楽しめそうなのにな



あ〜♡ 幸せ〜♡

この身体どんどん気持ちよくイけるようになってるぜ♡



おい小さすぎて子宮まで届いてないんだが？

これなら別の男と...

それは絶対だめだっ!!

俺頑張るからっ!!



まったく情けねえ乳首でイくかあ

先生っ

あふっ♡

あんっ♡

あんっ♡



はあ〜気持ちよくねえんだよなあ

スカスカすぎて俺のまんこ満たされねえ

先生っ

先生っ



あのガキに頼らずとも一人でやっていけるぜ

俺がリーナメルトとして生きていけるってことか



なんだこの記憶は俺じゃないぞ……？

そうかこいつの記憶リーナメルトの全てを俺は知ってる……!!



やはりリーナメルト様の姿をした別人なのか……？

コォォオオオ

パァァウウ

今日から俺が真正銘美人で天才な魔導師のリーナメルトだあーっ!!



記憶の通りに動かせば魔法も使えるぜ!!

この身体と能力を手に入れた俺は無敵だっ!!

私の任務はこれで終わりだな
公爵様へ報告しなければ

リーナメルト様のことは
気になるが…私が関与すべき
ことではないものだ

あ

シュトラウス男爵
ですよ？

わたし
リーナメルトです

ええ…

覚えていますか？
公爵様のお屋敷で
お話しましたよね

そのあと王都で
何度かお見かけ
したことがあります

それでは
ごきげんよう♪

ふんふん♪

これは私の知っている
リーナメルト様そのものだ

まさか…
二人いるのか？

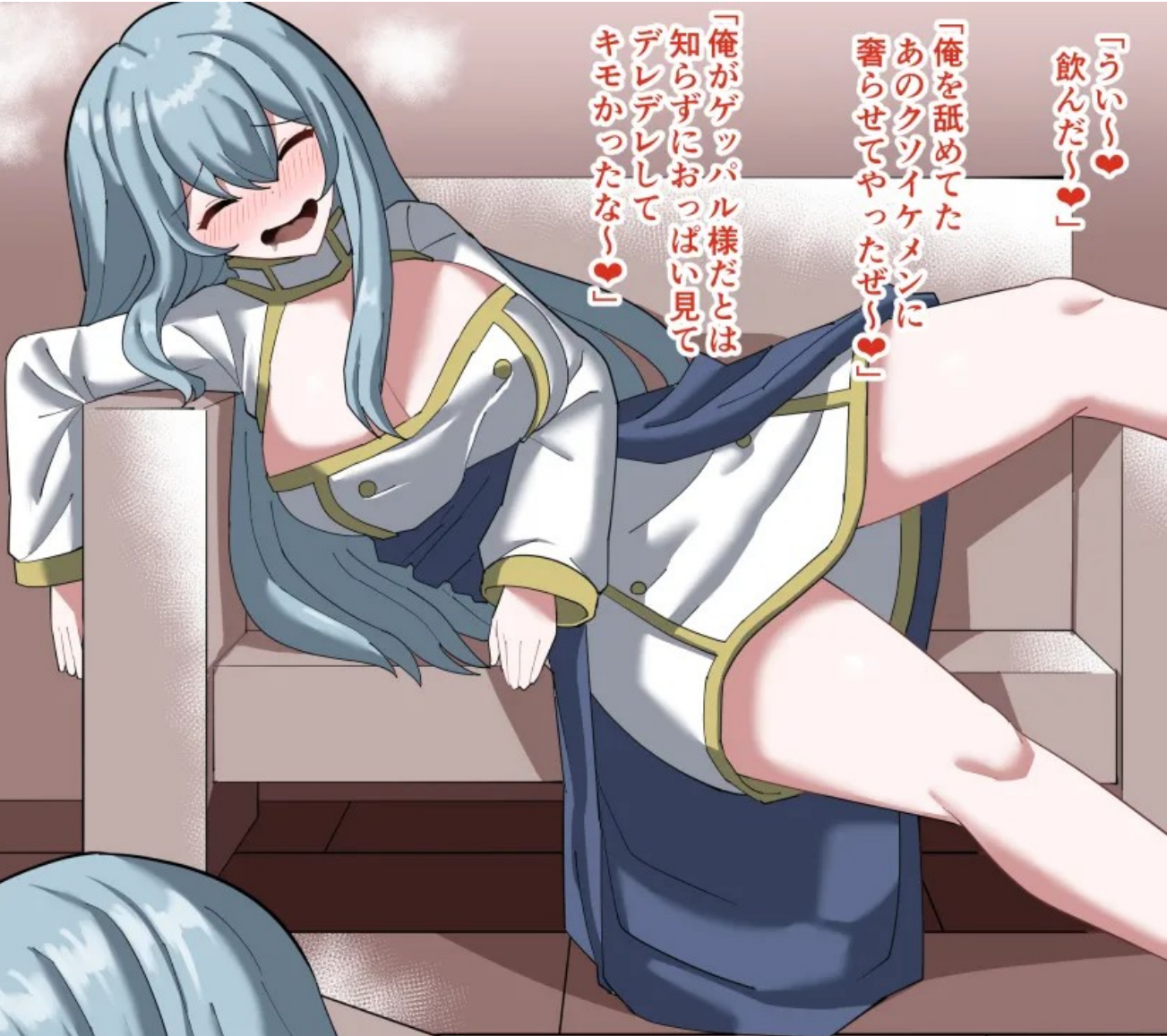
「うい〜♡
飲んだ〜♡」

「俺を舐めてた
あのクソイケメンに
奢らせてやったぜ〜♡」

「俺がゲツパール様だとは
知らずにおっぱい見て
デレデレして
キモかったな〜♡」

「うひい〜♡」

「美人だから毎日タダ酒
飲めるのサイコ〜♡」



リーナメルトの
身体で飲み歩くゲツパール



酔っ払って無防備な姿
おっぱいこぼれそうだし
パンツも見えてる

「うん〜♡」

「ひっ〜♡」



「えへへ〜♡」

リーナメルト先生の体を心配する弟子のユーリ

「酒くさっ……」

「こいつまた先生の体で勝手に酒飲んで……」

毛布を
かけにきた

「酔っ払っても先生はお美しい……いや騙されるなこいつは先生じゃないんだ」

「んっ♡
おっぱいかゆいっ♡」

「さむいかもっ♡」

「ゲッパル盗みを働くような男先生とは真逆の存在なんだ!!」

「あ♡」

「さっのみっけっ♡」

!?

「あったかっ♡」

「あっ
あぁ……」

8時間
このままだ

